## 校務DX

## めざす教職員の姿(教職員の働き方の転換)

「ICTを効率的に活用し、Well-being を高める姿」

効率的な校務 DX 化を通して、保護者・地域と連携しながら、すべての児童生徒の可能性を最大限引き出す教育を推進するとともに、心身ともに健康で、自らの人間性や創造性を高めようとする姿

As is(これまでの姿) ■	To be (めざす姿)
・学校と保護者・地域とのやりとりは 主に電話を用いている。	・デジタルツールを活用した、双方向の連絡が可能に なることで、保護者の満足度向上と教職員の負担軽減 につなげる。
・各教職員が把握している児童生徒の情報量や内容に偏りがある。	・ダッシュボード機能やコミュニケーションツールを 活用し、最新の情報共有と意思疎通を迅速に行うこと で、学校の教職員全体で組織的対応を行う。
・デジタルツールを利用しているが、 教員からの知識伝達型の授業に偏っ ている。	・デジタルツールの活用により、児童生徒の学習状況 の把握が容易になることで、自律的な学習への指導・ 支援の充実と授業の質的変換を図る。
・教職員の ICT 活用スキルの差が大 きい。	・全教職員が ICT 研修会へ参加し、学んだ内容を啓発 し合うことで、日常的な業務等での活用が促進され、 ICT スキルの向上に資する。
・教職員が学校徴収金に係る業務を担っている。	・口座振替やインターネットバンキングによる徴収の デジタル化により、徴収の手間を削減し、教職員の負 担軽減につなげる。
・出勤簿や休暇簿等、各種事務手続き を紙ベースで行っている。	・セキュリティを高めたクラウド活用により各種事務 手続をペーパーレス化し、提出・集計・保存を効率化 することで、教職員の負担軽減につなげる。
<ul><li>・学習と校務で異なるネットワークになっている。</li></ul>	・ネットワークが一元化され、クラウドを利用することで、場所を選ばない柔軟な働き方を選択することができる。
・テストの採点業務や文書作成等、個 人的業務や校務分掌の業務に時間が かかる。	・自動採点システムや生成 AI を活用し、業務に係る時間を短縮することで効率化を図るとともに、個人の業務を組織内で共有化することで負担軽減につなげる。